

第2回 うらやす市民大学運営委員会 議事要旨

- 1 開催日時 平成21年12月10日(木)17:00~19:00
- 2 開催場所 うらやす市民大学 受講室
- 3 出席者 (委員)
古在委員長、山内副委員長、阪本委員、東委員、高橋委員、武田委員、山本委員、菊地委員、押尾委員(欠席2名 宮崎委員、杉村委員)
(事務局)
市民大学プロジェクト 岩波、金子、一戸
市民大学事務局サポーター 中澤、林
コンサルタント (財)日本開発構想研究所(阿部、井上、長島、藤森、大橋)
- 4 議題
来期の授業科目編成について
その他
- 5 議事の概要
 - (1)委員の紹介について
 - ・前回欠席の委員及び事務局より自己紹介を行った。
 - (2)来期の授業科目編成について
 - ・受講生を対象とした授業科目の評価および来年度の受講既望科目に関する調査の報告を事務局より行った。
 - ・来年度の開講科目・スケジュールについて事務局からの説明の後、意見交換を行った。
 - ・授業時間等について意見交換を行った。
 - ・受講生の選定(継続・新規)等について意見交換を行った。
 - (3)連絡事項
 - ・修了証、年末受講生が主宰する新年会、校外学習会、市民プレゼンツ科目について事務局より報告を行った。
 - (4)その他
 - ・年末年始の休館日を12月28日(月)から1月6日(水)までとし、新年は1月7日(木)から開館とする。
 - ・次回日程は1月15日(金)17時から、場所はうらやす市民大学受講室で行う。

6 会議経過（主な意見などの要約）

委員自己紹介

- ・市民会議に参加をし、自分の意見を実践の場で試したいということで市民大学に入らせていただいた。時々テーマに最善を尽くし、運営委員としては微力ではあるが貢献したい。
- ・事務局のサポーターとして、どれだけのことをできるかわからないが、素晴らしい市民大学を創っていきたい。

授業時間・質疑の時間・定員等について

- ・授業の中で意見交換がないということにどのように対応するか。現在、1時間半（90分）の授業になっているが、これを2時間とか2時間半に増やすことは可能なのか。現在は1日3時限になっているが、午前1時限、午後1時限の1日2時限にすれば、授業時間を延ばし、対応できると思う。
- ・反省点として、なるべく質疑の時間を取って下さいと、各講師には伝えたが、はっきりと何分とは言わなかった。
- ・90分の授業のうち最後の30分討議にあてる、それとその30分を使って更に講義をするというのは、どちらが価値があるかという問題にもなる。
- ・授業時間に関しては90分が適当だと思う。また、受講生の中には、講義中心で問題ない人も、それでは満足しない人もいる。
- ・90分という授業時間が生活習慣化されている。時間帯を動かすのは避けたほうがよい。
- ・「うらやすの健康づくりを考える」 「うらやすで学ぶ歴史未来学」はカルチャーに近い。そういったものは定員を多くしてもいいのではないか。一方「うらやすの地域コミュニティを考える」等は20名程度が限界ではないか。
- ・カルチャー型（講義中心）も拒否をせず、その科目については定員を増やす。
- ・90分の授業の中で質問の増減は配慮する。また、アンケートの結果を活かして、事務局とサポーターで提言を作り、科目ごとの要望をコーディネーターに伝える。

平成22年度前期授業科目について

- ・予算と教室のキャパシティの問題があるため、来期は半期で13授業科目（前後期で26授業科目）を予定している。アンケートの結果を踏まえて、現在の10授業科目、新規科目を含めて13授業科目を設定できればと思っている。新たに政策的な枠を少し欲しいので、現行科目全てを継続すると定数オーバーになってしまう。
- ・現行科目について、同じものを開講するのか、一部修正をするのか、バージョンアップをするのか等も考えなければならない。
- ・5月の連休明け開講予定のため、シラバスを1月末までに確定したいので、本日は来

期の授業科目の確定をしたい。

(授業科目数について)

- ・13 授業科目を設定するというのどういうことなのか。
前後期で 26 授業科目ということです。前期と後期の授業科目が違って、全体として 26 授業科目を超えなければ問題ない。

(現行科目について)

- ・「うらやすの介護ボランティアを考える」に新規科目の「地域介護予防リーダー養成」を加えて一つの科目にしたい。
- ・「うらやすの介護ボランティアを考える」はアンケートで満足度が一番高いが、そのことについてどう考えるのか。
二つの内容は非常に似ているので、問題はないと思う。
- ・「うらやすのブランドづくりを考える」と「うらやすの観光を考える」は 2 科目連続で行っているものを一つにまとめることはできないか。
- ・この二つの科目については、受講生もほとんど同じ人のようだ。
- ・担当コーディネーターに相談し、意見を伺い了解をいただければ、一つにまとめる。
- ・「うらやすの情報を考える」は、授業の水準をどこに焦点を当てて進めたらいいのかというところで評価が分かれている。コンピュータを使った科目は残したいが、形態を変えて何かできないか。
- ・全体として受講生と授業科目のミスマッチの中には、授業の内容はいいけれど受講生の期待通りではないというものもある。授業科目は、ある種の資源なので簡単に切り捨てるのはもったいない。
- ・「うらやすの情報を考える」の内容が技術習得型だとすると、他の授業科目とは違ってしまわないか。
- ・市民として、ある種のリーダーになる時に技術というのが必要になってくるのではないか。
- ・何のために技術を習得しているのか見えないといけない。そこを相談して、「うらやすの情報を考える」を継続する。
- ・継続する授業科目については、現在受講している方は受講できない、一部修正してバージョンアップという場合は現在受講している方が受講できる等、どういう方向で科目の校正をするかをはっきりしたほうがいいと思う。
- ・バージョンアップなしに継続する授業科目については同じ講師が話すけど、違う受講生が聴くとういことにしないとけない。
- ・バージョンアップした授業科目については、名称も変えるべきではないか。

(新規科目について)

- ・状況から言って絶対に増やさなければならないのは「園芸福祉」と「地域介護予防リ

ーダー養成」だが、あと一つくらい増やせるのか。

運営準備会で要望が高かった「浦安から時流を見る生活学」を、「現役世代を対象にした講座」とし、新規に設定したい。また、働く女性をターゲットにした授業科目を夜間に増やしたらどうかと思っている。

- ・「働く女性をターゲットにした科目」については、女性を中心にシラバスを考えないといいものがない感じがする。準備が間に合わなければ後期に開講するというところで立案をする。
- ・新規科目として、「浦安から時流を見る生活学」、「園芸福祉」、「アラフォー世代の元気な生き方（働く女性をターゲットにした科目）」、「うらやすの介護ボランティアを考える」と統合したものと「地域介護予防リーダー養成」を設定する。
- ・次回の運営委員会で名称も含めて、新規科目を出せればと思う。

（授業の期間、シラバスの作成について）

- ・1月30日がシラバスの締め切りなので、各授業科目のコーディネーターに事務局からアプローチをし進めていくということでもいいか。
- ・今期のように、毎週10回3ヶ月で終わってしまわないよう2週に1回の頻度でシラバスを組んだ方がいいのではないかと。
各授業科目のコーディネーターには、原則として2週に1回とお願いをする。
- ・来期はいつまでやるのか。5月から始めて隔週で開講すると20週間だが、夏休み等は
どうするのか。
期間としては5月中旬から9月末となる。ただし、8月中旬の開講は難しいと考えている。
- ・8月は休みにするのかもしれないのか、お盆だけ休みにするのかが等、大体のスケジュールを事務局に作り、意見をまとめて早めに各授業科目のコーディネーターに伝える。それに基づいて講師に依頼し、シラバスを作成する。

（その他）

- ・最終的なアンケート結果を参考にして、授業科目ごとに、このようなことを配慮して欲しいという受講生の希望を各コーディネーターに伝える。また今回の運営委員会の意見も合わせて伝えることとする。

受講生の選考等について

- ・学んだ人たちが知り合いになっていくことが大事なことで、それでコミュニティをどうやって広げていくのか。その時に現在の受講生、新規受講希望者という線引きをどうしていくのが難しいところだと思う。
- ・アンケートによると、継続を希望する受講生が7割（約120人）、友達などに勧めたいと答えているのが50人いる。

- ・現在の受講生の枠、優先権をどうするか、新規の希望者にどのくらいの枠を割り当てるのか、あるいは一律で選考を行うのか。

(受講科目の上限について)

- ・現在、3科目を受講している方が結構いると思う。受講科目の上限としては2科目か3科目だと思う。
- ・現在、最大で6科目を受講している方がいるが、少し多すぎるので、最大で3科目とする。
- ・最大3科目にしても受講希望者が溢れる可能性があるので、受講希望者に受講したい順位を付けてもらい選考したらどうか。

(受講生の選考について)

- ・全くの新規受講希望者と現在の受講生とをどのように扱うのか。
- ・受講科目ごとに、例えばバージョンアップした科目については前回受講生を優先する、前回と同じ内容の科目であれば新規受講希望者を優先する等をはっきりさせる必要がある。
- ・新規受講希望者には少なくとも1科目は取らせるようにする。また、現在の受講生も新規受講希望者も第3希望まで申込みできるようにする。
- ・人気の高い科目については抽選で振られることがあっても仕方がない。
- ・選考の際にうまく割り振って一人の受講科目減らし、多くの人が受講できるようにする。選考方法に関しては事務局で具体案を作る。

その他

- ・修了証、年末受講生が主宰する新年会、校外学習会、市民プレゼンツ科目について事務局より報告を行った。

(修了証について)

- ・修了証を各授業科目の最終回にそれぞれコーディネーターから渡していただきたい。修了生は、「 授業科目の修了生」という形で了承を得た上、人材データベースに登録させていただく。今の段階で人材データベースを主としてどのように活用させていただくかは検討中である。
- ・各授業科目の修了に関しては、10回中7回の出席で修了ということで、これは厳密に7回以上でいいのか。
厳密に7回以上の出席ということです。

(新年会について)

- ・「新年交流会」を1月30日(土)に行うこととした。時間場所については未定である。
- ・全学生と今回お世話になった51人の講師の方々にも、ぜひ参加していただきたい。
- ・基本的には受講生が主宰するものとして、各コーディネーターから講師へ知らせる。

また、参加する講師の方々からも会費をいただくことにしたらどうか。

(校外学習会について)

- ・第1回を福島第一原子力発電所、第2回を勝浦花野辺の里、第3回を国立歴史民俗博物館と決定し募集中である。現在20名以上の方が申し込みをしている。

(市民プレゼンツ科目について)

- ・「市民プレゼンツ科目」を1月中旬から開講する。木曜と土曜の開講となり、それぞれ25名程度の受講申込がある。
- ・これは現在の受講生が聴くということなのか。
学内活動として、講師も現役学生、聴く人も現役学生ということでやらせていただきたい。